

# JAIST mos 2010

サービス経営コース  
2010年度入学案内

国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学  
知識科学研究科・情報科学研究科 博士前期課程

「知識科学」と「情報科学」に基づいた、  
サービス・イノベーション教育プログラム JAIST MOS で、

サービス・イノベーションの  
先駆者になる。



メッセージ 2-3

JAIST MOSの提案  
「価値」「ネットワーク」「創造性」「融合」 4-11

JAIST MOSのカリキュラム 12-14

サービス・イノベーション科目 15-17

基盤となる科目 18-19

JAIST MOSでの学び方 20


JAIST MOSの教育陣 21-23

JAIST MOSの教育システム  
「職学近接」 24-25

アドミッション・ポリシー 26-27

入学試験の概要 28

JAISTのビジョン 29



サービス・イノベーションはサービス企業のみならず、非サービス企業にとっても重要なファクターになっています。「ものづくり」は「価値」を原材料に転写することです。一方、「サービス」は「価値」をオペレーションとして顧客に提供することです。高いレベルのものづくりとサービスは、本質的に同じ命題を抱えています。それは「何を価値として提供するべきか」という命題です。

日本の産業は、品質と性能の優位性によって世界を制覇しました。戦後日本の経験は人類史を大きく塗り替えるイノベーションの連続であったといえるでしょう。今日、日本は新たなステージに立っています。世界のメインプレーヤーとして、新たな成長の種を見出していかなければいけません。

モノ・サービスの枠を超えたビジネスシステムの開発こそ、日本の産業にとって新たなフロンティアなのです。モノ・サービスの枠を超え、価値主導のビジネスシステムの開発をめざすための知の基盤、それがサービス・サイエンスであると、私たちは考えます。



mOS

JAIST  
Management Of Service  
Master's Program

JAIST MOS があなたの  
“サービス・イノベーター” としての  
スタートラインになる。

# JAISTの叡智を 「サービス」に結集させる

片山 卓也

[学長]

**JAIST**  
JAPAN  
ADVANCED INSTITUTE OF  
SCIENCE AND TECHNOLOGY  
1990



工学博士（東京工業大学）  
専門分野：ソフトウェア工学・科学

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）は、世界最高水準の科学技術の教育と研究を担う、学部を持たない大学院大学として我が国ではじめて1990年に誕生しました。1996年には、知識科学という新しい研究領域を拓いた、世界初の知識科学研究科が設置されました。

JAISTは、世界を先導する教育・研究機関として常に進歩を遂げてきました。以来、最先端の科学技術の研究を推進し、研究者・技術者の育成やリカレント教育を担ってきましたが、これまでに約4,200名の修士と600名の博士を輩出してきました。JAISTでは、整備されたカリキュラムに基づくコースワーク中心の教育により、基礎力があり、新しい問題に挑戦できる人材を養成しています。特に、「創造性」があり「コミュニケーショ

ン能力の高い」人材を育成していくことに、プライオリティを置いています。JAISTは常に開かれた高等教育機関として、新たな地平を拓こうとする挑戦者を支援してきました。大学のみならず、企業の研究者・技術者、社会人で意欲の高い人が集まっています。

2009年、JAISTの新しいステージが始まりました。「サービス・イノベーション」を創成する人材の育成のために、JAISTの叡智を結集したJAIST MOSを開講しました。サービス・イノベーションの創成に取り組もうとする、みなさんと共に歩む用意が整いました。知識科学研究科で蓄積されてきた、「知識創造のための科学」と情報科学研究科が蓄積してきた「最先端の情報工学・科学」を中核に、幅広い科学技術を融合させ、新しいサービスを創成する人材の教育を行います。

JAIST MOSであなたのサービス・イノベーションを見出し、創り上げてください。

科学技術の高度化が加速し、社会、経済との密接なつながりが強まっていく中、科学技術は、人間にとっての「価値」とは何かということを強く意識して、人類の幸福に貢献していくことが強く求められています。このためには、人間にとっての価値創造をどのように科学するかが重要な課題であり、それに基づいてイノベーションを創出することが大きな研究テーマです。

サービスは、これまで、顧客満足をキーワードとして語られてきましたが、それは、顧客の要求を満足する価値の創造であったといえます。顧客価値の創造を追求するサービス・イノベーションは、既存のサービス産業の高度化と同時に21世紀の新たな知識産業社会の発展にとって、なくてはならない重要なコンセプトです。サービス・イノベーションの実現には、人間にとっての新たな価値を創造する「知識科学」と、これを現実のものとして実現する「情報科学」が不可欠です。

JAISTは、世界初の知識を科学する研究・教育拠点として「知識科学研究科」を設置し、数多くの成果を世界に発信してきました。そして、知識を科学するというテーマを掲げ、その知見を科学技術のマネジメント、イノベーション創出に応用すべく、技術経営(MOT)コースを設置し、数多くのマネージャ人材を輩出してきました。また、世界最先端の情報技術の研究・教育拠点としての「情

報科学研究科」は、国内外にその実力を知られています。

サービス新時代において、新しいサービスの創造が求められる時、「知識科学研究科」と「情報科学研究科」が連携して創るサービス経営(MOS: Management of Service)は、なくてはならない学問領域といえるでしょう。新設したサービス経営(MOS)コースでは、サービス新時代に必要とされる様々な知識を学び、これを現実の課題解決に結びつけることで、世界をリードするサービス・イノベーターの育成を目指したいと思います。

工学博士(京都大学)  
専門分野: 研究開発マネジメント、  
サービス・イノベーション、システム工学

# mOS

JAIST  
Management Of Service  
Master's Program

## 小坂 満隆

[知識科学研究科教授]



世界を先導する  
サービス・イノベーション人材の  
教育拠点へ

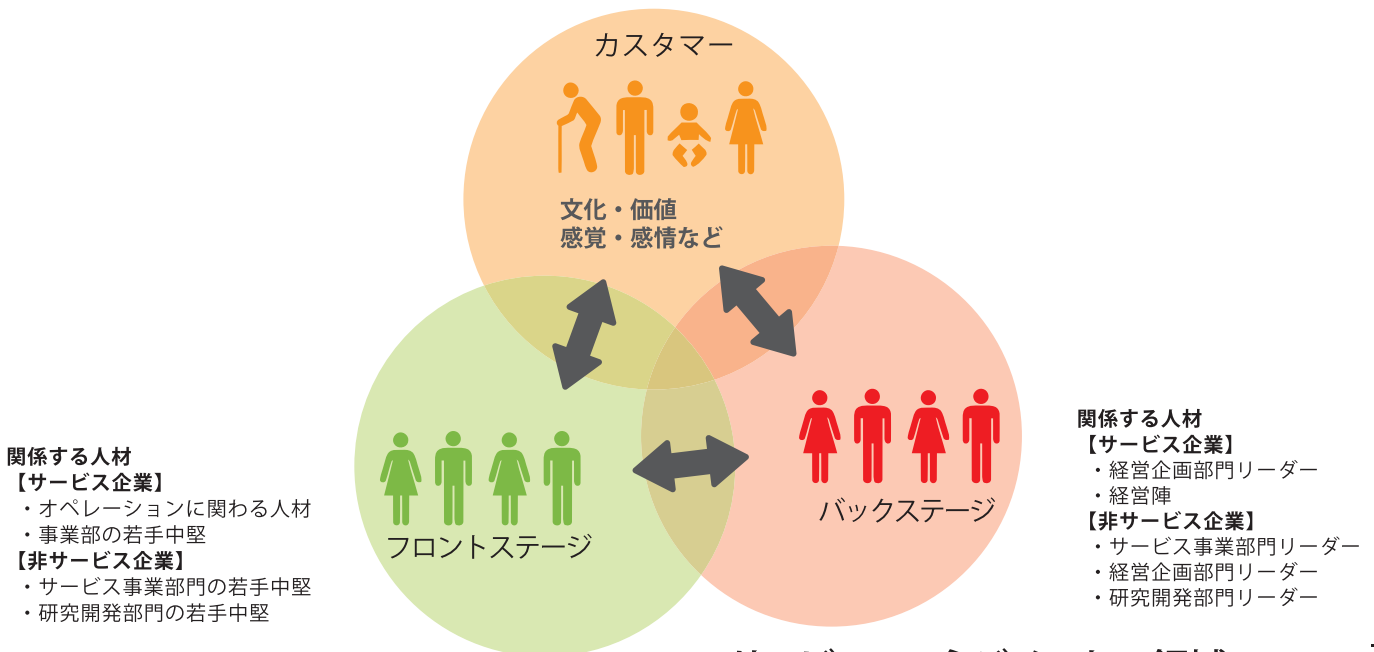
JAIST MOSの  
**提案**

サービス・サイエンスを先導してきた  
JAISTだからこそ  
育成できるサービス・イノベーション人材がいる



サービス企業・非サービス企業を問わず、  
「より高い価値を提供する」ビジネスを創出する  
専門職人材を JAIST MOS は育成します。

## サービス価値の領域



## サービス・オペレーションの領域

「サービスの効率性・生産性、サービス品質の向上」などを重視するサービスイノベーション

## サービス・マネジメントの領域

「新しい価値を提供するサービスを創出する」ことを重視するサービスイノベーション

「サービス・イノベーション」には3つの見方があります。第一は「サービスの効率性・生産性、サービス品質の向上」を重視するサービス・イノベーション（サービス・オペレーションの領域）です。第二は「サービスビジネスの開発、システム化」などを重視するサービス・イノベーション（サービス・マネジメントの領域）です。第三は、「カスタマーとサービス提供者が協働して、新たな価値を創出する」ことを重視するサービス・イノベーション（サービス価値の領域）です。

これらの中でも、今、サービス・オペレーション領域のサービス・イノベーションが特に重視される傾向にあります。戦後、ものづくりにおいて日本が成功したモデルをサービスにも適用しようという発想によるものです。

しかし、JAIST MOSはサービスを深く見つけ、どのように価値と効率性を共存させ、絶え間ないイノベーション創出を可能にするプラットフォームが構築できるかに重点を置いています。

サービス生産性・効率性の向上に留まらない、価値の領域、オ

ペレーションの領域、マネジメントの領域を俯瞰した、知識創造としてのサービス・イノベーションがJAIST MOSのめざすものです。

サービス企業において、経営企画部門や経営意思決定に携わる方、非サービス企業においてサービス事業部門のリーダー層や経営企画部門、研究開発部門のリーダー層が、より高い成長を遂げることためのカリキュラムとしてJAIST MOSは生まれました。

サービスの効率性・生産性、サービス品質の向上を図るというサービス・イノベーションの重要性もJAIST MOSは認識しています。主にオペレーションの現場で課題となる、サービスの生産性や品質の向上をめざす際にも、JAIST MOSが掲げる「新しい価値を提供するサービスを創出する」という視点が、激しい競争を勝ち抜く強みとなるでしょう。

「サービス」を中核にしたビジネスの開発を担う人材が、広い視野を獲得し、あらゆるビジネスシーンで活躍するリーダーとなるチャンスを、JAIST MOSは提供します。

JAIST MOSは「サービス・イノベーションを先導する人材の育成」を使命としています。

新しい価値を創造するサービスを「見出し」、「デザインし」、「実装する」という3つの能力を持つ人材を養成します。

第一の「見出す能力ー洞察力」は、環境の変化を敏感に感じ取り、今、何が必要とされているのかを知る「アナリストとしての能力」です。第二の「デザインする能力ーデザイン力」は、見出した新たなサービスを実現するために必要な要素（科学技術など）を選択・調達・開発する「探究者としての能力」です。第三は、「実装する能力ー実装力」です。逆風や困難の中にあっても行動し、周囲を説得し、牽引する「志士 (noble idealists) としての能力」です。

私たちが描く「サービス・イノベーション人材」は、サービスを通じて、世界のあり方を大きく変える可能性を秘めた人材、いわば「未来」そのものです。私たちは「未来」を育て、「未来」

とともに歩みます。

JAIST MOSの修了生は、より高い次元のサービス・イノベーションを実現する人材として、サービス・イノベーションの第一線で活躍することになります。

サービス企業や製造企業でサービス事業のオペレーションに携わってきた中堅・若手のみなさんは、現場で培ったサービスの暗黙知を基盤として、JAIST MOSでサービス・イノベーションの融合的・俯瞰的な視野を獲得し、オペレーションの現場からサービス・イノベーションを主導することになります。

JAISTはいち早くサービス・イノベーションの研究・教育に着目し、日本において先導的な役割を果たしてきました。

今、JAISTは蓄積してきたサービス・イノベーションに関する知的資源を、サービス・イノベーション人材の育成に結集させました。それがJAIST MOS（北陸先端科学技術大学

院大学サービス経営コース：Management Of Service Master's Program）です。

サービス・イノベーション人材は、サービスというかたちのないものを対象に、イノベーションを創出します。このような人材を育てる教育プログラムは、理論や方法論を備えているだけでは十分ではありません。創造的な視点・視野、仮説設定力を持ち、具体化していくためのシステム統合力と実践力を養うことが必要なのです。

JAIST MOSは、JAISTが蓄積してきた「知識科学」と「情報科学」の知見を結集し、サービス・イノベーションに特化した、世界的にも先駆的な教育プログラムです。

JAIST MOSのカリキュラム・スキームは以下の4つのアプローチから描き出したものです。

「所有価値」を前提にして、発展を遂げてきた製造産業が、新たに「利用価値」を提供するサービスビジネスへ展開する際に、キーとなるものが「情報通信技術」であると、JAIST MOSは考えます。

JAIST MOSの母体の一つである、情報科学研究科が蓄積してきたITの知をサービス・イノベーション創出人材育成に向けて提供していきます。

JAIST MOSは精神論に終わらない、サービス・イノベーションを実体化していく基礎力を大切にしています。

## 「ネットワーク」 情報科学からのアプローチ

## 「価値」 知識科学からの アプローチ

JAIST MOSの母体の一つである知識科学研究科は、世界で初めて「知識」をテーマとして設立された研究・教育機関であり、「知識創造」という切り口で知識のメカニズムを探究しています。

サービスにおけるキーファクターである「人間」や「価値」を探究し、サービスの新たな可能性を創出するためには、既存の学問領域に囚われることのない視点が不可欠です。

JAIST MOSでは、知識科学研究科で培った学際的な研究・教育を背景に、自然科学、社会科学、人文科学の知を動員し、サービスの新しい問題に取り組みます。



サービス・イノベーションに向けた、  
JAIST MOSの4つのアプローチ

「価値」「ネットワーク」  
「創造性」「融合」

産業競争力の源泉は、経済活動に関わる要素の新たな組み合わせによって価値を創造することにあります。

日本は、ものづくりにおいて、イノベーションを創出してきました。新たにサービス・イノベーションに挑むことで、日本はさらに大きな飛躍を遂げるとともに、世界の繁栄に貢献することができます。それはサービス産業のみならず、製造業においても必要な視点です。

JAIST MOSは、企業の盛衰を分け、日本の産業競争力の未来を握るサービス・イノベーション人材のニーズに迅速に対応します。

サービス・イノベーションの最前線に立つみなさんが抱える課題こそがイノベーションの種なのです。

## 「創造性」

ビジネス科学からの  
アプローチ

## 「融合」

横断型科学技術からの  
アプローチ

JAIST MOSでは、新しいサービスの創造を、「多分野の知識融合プロセス」と考えています。そこでは、「文の知」と「理工の知」という枠組みは、サービスというレイヤーによって、統合される必要があります。

科学は新たに体系化されていきます。物理や化学といった自然科学の摂理を利用した、電気、機械、情報など既存の領域概念に依存した技術（例えばナノテクノロジーや光通信技術などの「縦型の科学技術」）のみでは、人間の社会が抱える複雑な問題を解決することはできません。そこで必要になるのが、「横断型の科学技術」、つまり人間のニーズ実現のためのエンジニアリングや方法論です。

JAIST MOSは、JAISTが持つ知識科学の知見を横断型科学技術に適用していきます。

サービスとは、「人や組織がその目的を達成するために必要な活動を支援する行為」です。サービスを知識科学的に解釈するならば、「知識がサービスという行為を通して表出されるプロセスであり、顧客にとっての価値を創出するための知識創造」です。

JAIST MOSの母体の一つである知識科学研究科は、世界で初めて「知識」をテーマとして設立された研究・教育機関であり、「知識創造」という切り口で知識の創造・蓄積・活用のメカニズムを探究しています。

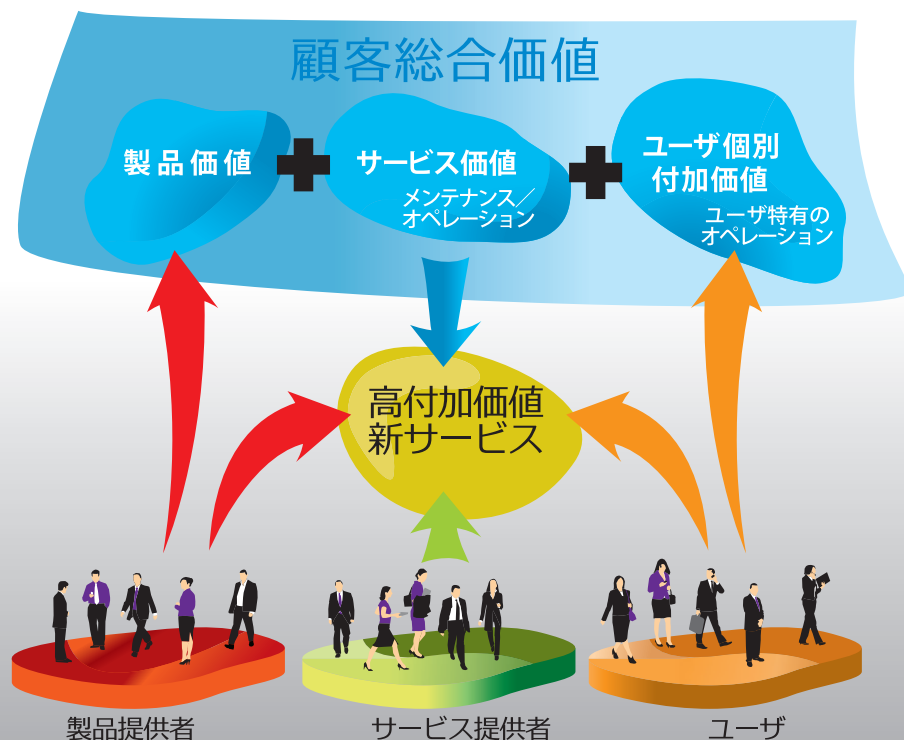
サービスのユーザである「人間」を探求し、顧客にとっての「価値」を創出するためには、既存の学問領域に囚われることのない研究が不可欠です。例えばモノを所有して消費する「所有価値」からレンタルやリースといった「使用価値」への転換など、人にとっての価値は時代とともに変化しています。サービス研究には「サービスマーケティング」「口コミ」「デザイン」「エスノグラフィ」「おもてなしの心」といった視点、そして社会環境や地球環境に関する知見も組み合わせることが必要でしょう。JAIST MOSでは、知識科学研究科で培った学際的な研究を背景に、自然科学、社会科学、人文科学といった知を動員して様々な問題に取り組むことができます。

そして、サービスの未来を切り拓く知識創造の主役もまた「人」です。

知識科学研究科の初代研究科長である野中郁次郎先生は、「知識創造人材の育成こそがイノベーション生成に重要である」と述べ、「高質な経験の機会を付与する教育」「理論と実体験・実践との組み合わせ」を説いています。

その理念を受け継ぎ、JAIST MOSは知識社会を担う問題発見・問題解決型人材を養成し、理論と実践を兼ね備えた知識創造人材を育成するために最高の機会を提供します。

## 「人の希望や欲求・幸福は何か」 という問いがサービスの原点



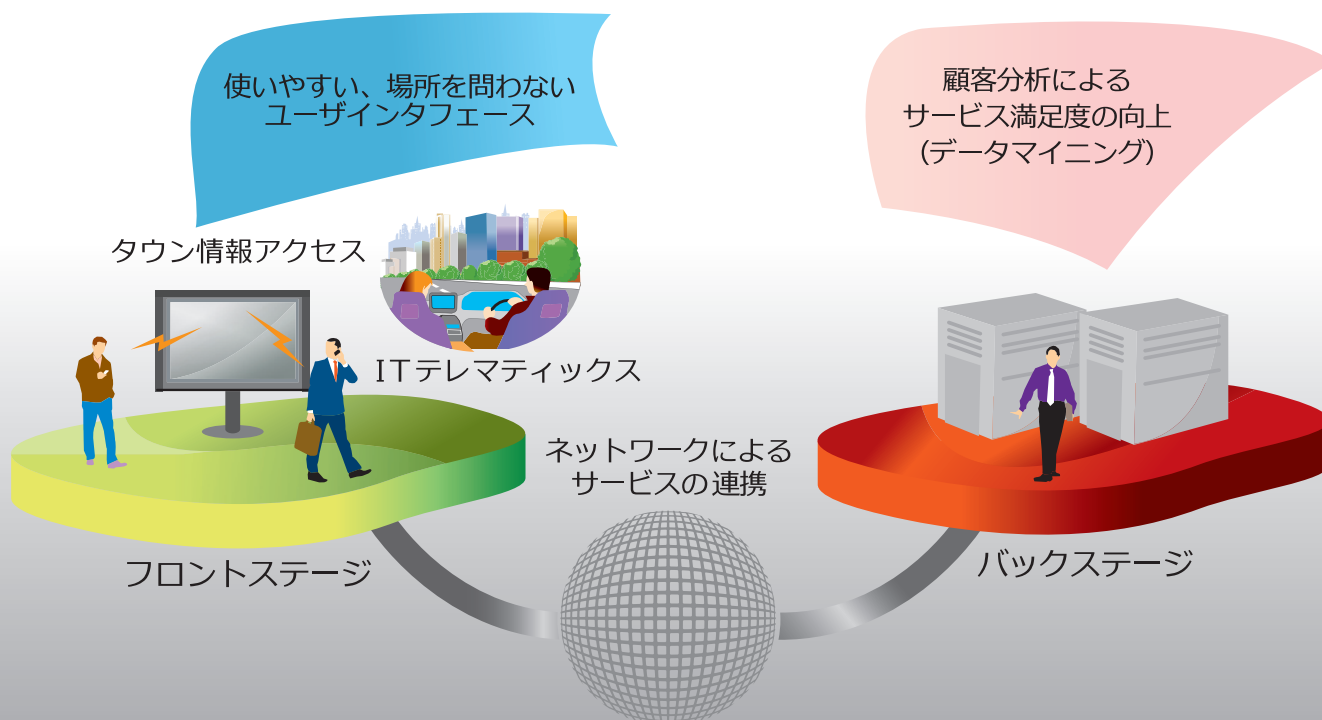
ITはビジネスのあらゆる局面で活用され、現代の生活はITなしには成り立たなくなっています。家庭、企業、自治体、政府など、私たちの社会を構成するあらゆるシステムにおいてITは基盤となっています。さらに、地球環境問題解決のキーファクターとしてグリーンITが位置づけられているように、ITの社会的効用が本格的に求められる段階に入っています。

ITとサービスとの関係は深く、すでに情報科学や情報産業におけるサービスへのフォーカス、サービス化は進んでいます。情報産業においてはアウトソーシング、データセンタ、運用保守サービス、コンサルティング、情報検索・提供、コンテンツ配信などのビジネスが高度化しています。また、情報産業に限らず新しいサービスの事業化においてはIT、特にインターネット関連技術は不可欠です。

サービス革新における情報科学の意義、それは情報ネットワークによる種々のサービスの連携です。「Front Stage」すなわちユーザーに直接関連するサービスと、「Back Stage」すなわちそれを提供するプログラムやデータベースをネットワークでつなぐことによって、顧客価値の創出システムを構築することができます。

JAIST MOSのもう一つの母体は、本学の情報科学研究科です。情報科学研究科はスタッフの数・設備ともに国内の情報科学関連の学科・研究科の中でトップクラスにあり、国内外から高い評価を得ています。新サービス実現の鍵となる、(1) SOA (Service Oriented Architecture)、(2) ウェブサービス、(3) 安心安全な電子社会を実現するインターネット基盤技術など、最新の研究成果を学ぶことで、JAIST MOSは精神論に終わらない、確実なサービス・イノベーションの礎を提供します。

## ネットワークは、サービスの価値を「提供し」「感じ」「はかり」「つなぐ」基盤となる



産業競争力の源泉は「イノベーション」、つまり新たな技術・方法との組み合わせによる経済価値の創造です。

かつての日本は、改善・改良型のインクリメンタル・イノベーションで世界を凌駕しました。しかし、もはや改善・改良だけでは、成長した日本の国際的な産業競争力を維持することは難しくなっています。企業の盛衰を分け、日本の産業競争力強化の鍵を握るもの、それが新サービス・製品のコンセプトを創出するラディカルなイノベーション・マネジメントです。

サービス・イノベーションは、サービス（ビジネスモデル）の新規性のみではなく、技術の新規性との組み合わせで考える必要があります。

情報通信技術が高度に活用・基盤化した今日では、サービスはネットワーク化され、人がどう行動したか、どう感じたかを取り込み、常に進化します。たとえば、情報産業においては、ハードウェアにソフトウェアやサービス、ソリューションが加わり、人々の集合知がネットワーク化され、ビジネスモデルの高度化や多様化が進んでいます。

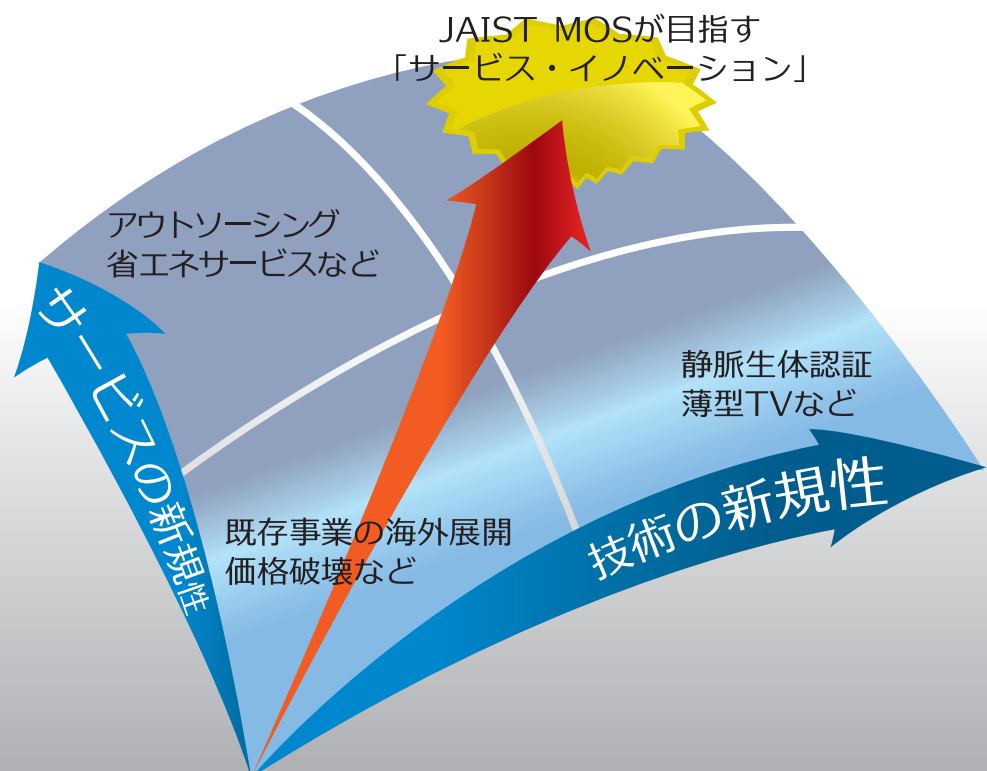
JAIST 東京サテライトキャンパスで併設されている MOT（技術経営）コースでは、研究開発の上流から製品化・事業化・産業化まで、企業レベルから社会全体にわたるイノベーション・マネジメントのシステム構築とそれを担う人材育成に取り組んできました。

JAIST MOS は、技術経営の知を背景に、技術とサービスを組み合わせたサービス・イノベーションを担うプロフェッショナルの育成を目指します。

「人」が価値を感じ、満足するという最終的なゴールを目指すという点で、サービスも製品も同じ立脚点にあります。

JAIST MOS は、国際的にも展開可能な高い新規性を持ったビジネスモデルを構築し、将来の世界を変革する人材を育成します。

## 「技術」と「サービス」の組み合わせで新しい次元をひらく



私たちは新しいサービスの創造を、「多分野の知識融合プロセス」と考えています。そこでは、「文の知」と「理工の知」という枠組みは、サービスという概念で統合される必要があります。個々の科学はサービス・イノベーション創出のための体系として新たに展開します。

人類の未来に希望をもたらす技術として注目される、ナノテクノロジーや光通信技術などは、物理や化学といった自然科学の摂理を利用し、電気・機械・情報といった既存の分野に依存した技術であり、いわば「縦型の科学技術」です。

しかし、「縦型の科学技術」がそれぞれの領域内で深化するのみでは、今日の人間社会が抱える複雑な問題を解決することはできません。

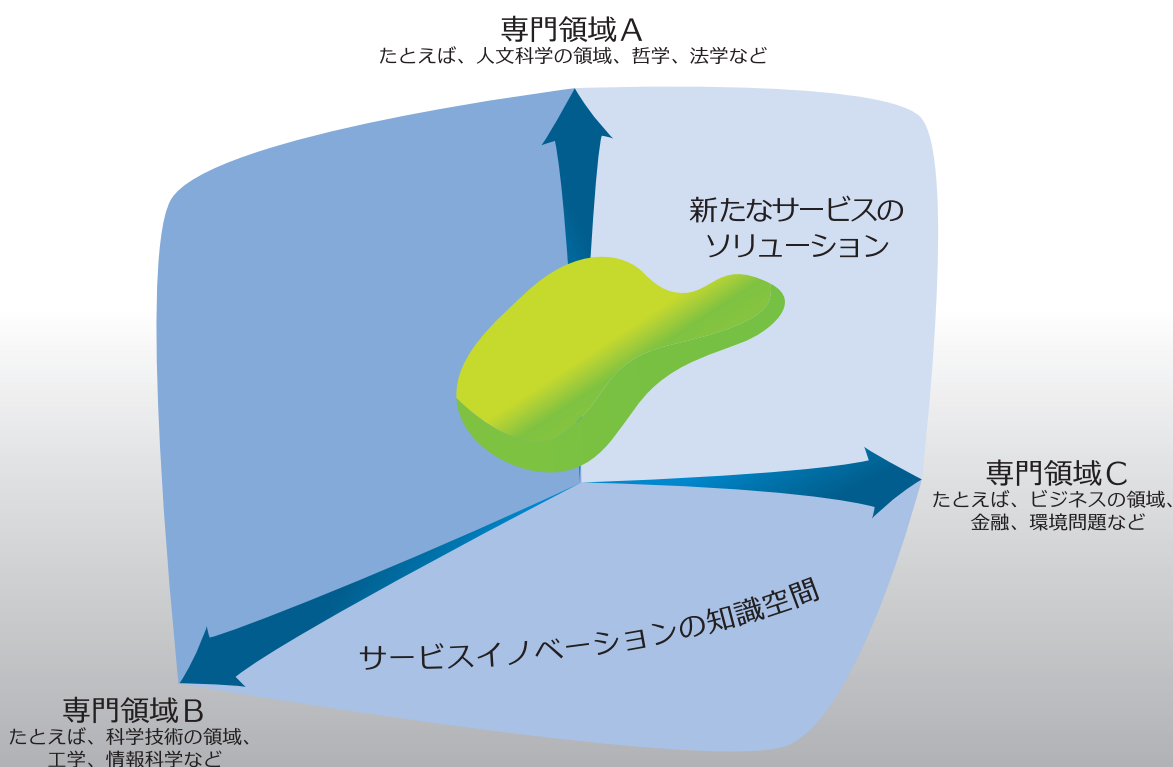
そこで必要になるのが、「横断型の科学技術 (Trans-disciplinary Science and Technology)」、つまり人間のニーズ実現のためのエンジニアリングや方法論です。その内容はモデル表現、モデル DB、制御論といった形式論から、技術倫理、技術政策、メディア論まで含む価値論、共創論理、システム計画技法などの発想論まで多種多様な広がりを見せています。その背景にあるのが、自然科学、社会科学、人文科学といった諸科学の融合です。

縦型と横型の研究成果を含む個別プロジェクトの例は、ユビキタス情報社会、ナノテク応用システム、環境などの分野で見ることができます。その目的は個別学問を究めることではなく、産業発展や生活の向上、そして持続可能な社会の実現なのです。そして、サービス・サイエンスやサービス・イノベーション創出の知識も、縦と横の分野の融合によって、産業や社会の発展に貢献する使命があるのです。

JAIST MOS は、サービスのユーザである「人」のニーズに立って学問体系を再構築し、「知」の再編と融合を図ります。同時に、自由な発想と総合的判断力を持って問題発見と解決にあたる人材の育成に尽力します。

JAIST MOS は、総力で「知識社会のパイオニア」を育成します。

## 分野を超えた、知の融合で、「サービス・イノベーション」をめざす





## カリキュラムをかたちづくる 4つの「視野」と3つの「能力」

### 4つの「視野」で サービス・イノベーションに挑戦する

JAIST MOSのカリキュラムは、サービス・イノベーションに挑戦する人材にとって必須である4つの視野を提供します。

4つの視野とは、「人間系」「技術系」「マネジメント系」「社会系」です。

人間系では、サービスと人間の多面的なあり方をテーマとします。歴史、哲学、倫理、認知科学、エスノグラフィ、デザイン、日本文化など、サービス・イノベーションのベースとなる、多様な視点を提供します。

技術系では、技術知とサービスの融合による進化・展開のための科学・技術の理解をテーマとします。概念的なものから、ITを中心とした、個別技術までを扱います。

マネジメント系では、新たなサービスを創出し、システム化、事業化するための実践的なマネジメントをテーマとします。将来を見据えた、実用性が高いビジネス知を重視します。

社会系では、サービスをマクロ的視点から分析・解釈します。今日、世界市場を見据えて事業展開することが求められているサービス産業で必要とされる、俯瞰的な視点を提供します。





## 3つの「能力」で サービス・イノベーションを先導する

JAIST MOSのカリキュラムは3つの能力を磨くために設計されています。それは「洞察力」「デザイン力」「実装力」です。新たなサービスを創出するサービス・イノベーション人材には、これら3つの能力が総合的に求められています。

「新たな価値を発見する」洞察力はイノベーターとして必須の能力です。全く新しい価値や既にある価値を新たな断面で切取る能力を育成します。

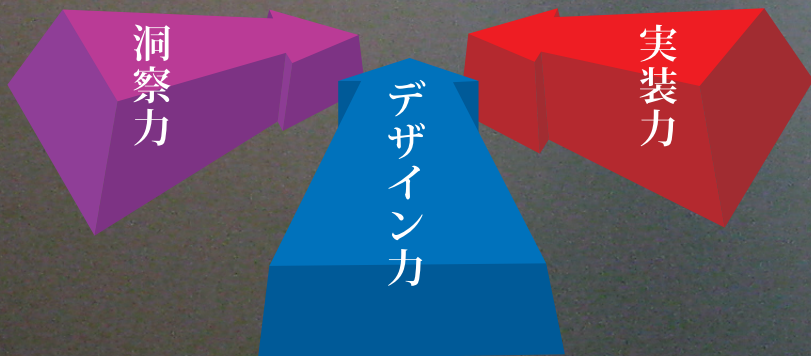
また、新たな価値をどのように提供すべきか、求められるシステムは何かを構想する「デザイン力」も重要です。

さらに、構想したサービス・イノベーションの設計図を実現させるため、必要な構成要素を集め、実際に構築していく「実装力」を育成します。サービス・イノベーションの基盤の一つとなる情報通信技術をはじめ、技術を活用していく際に必須の知識を提供します。

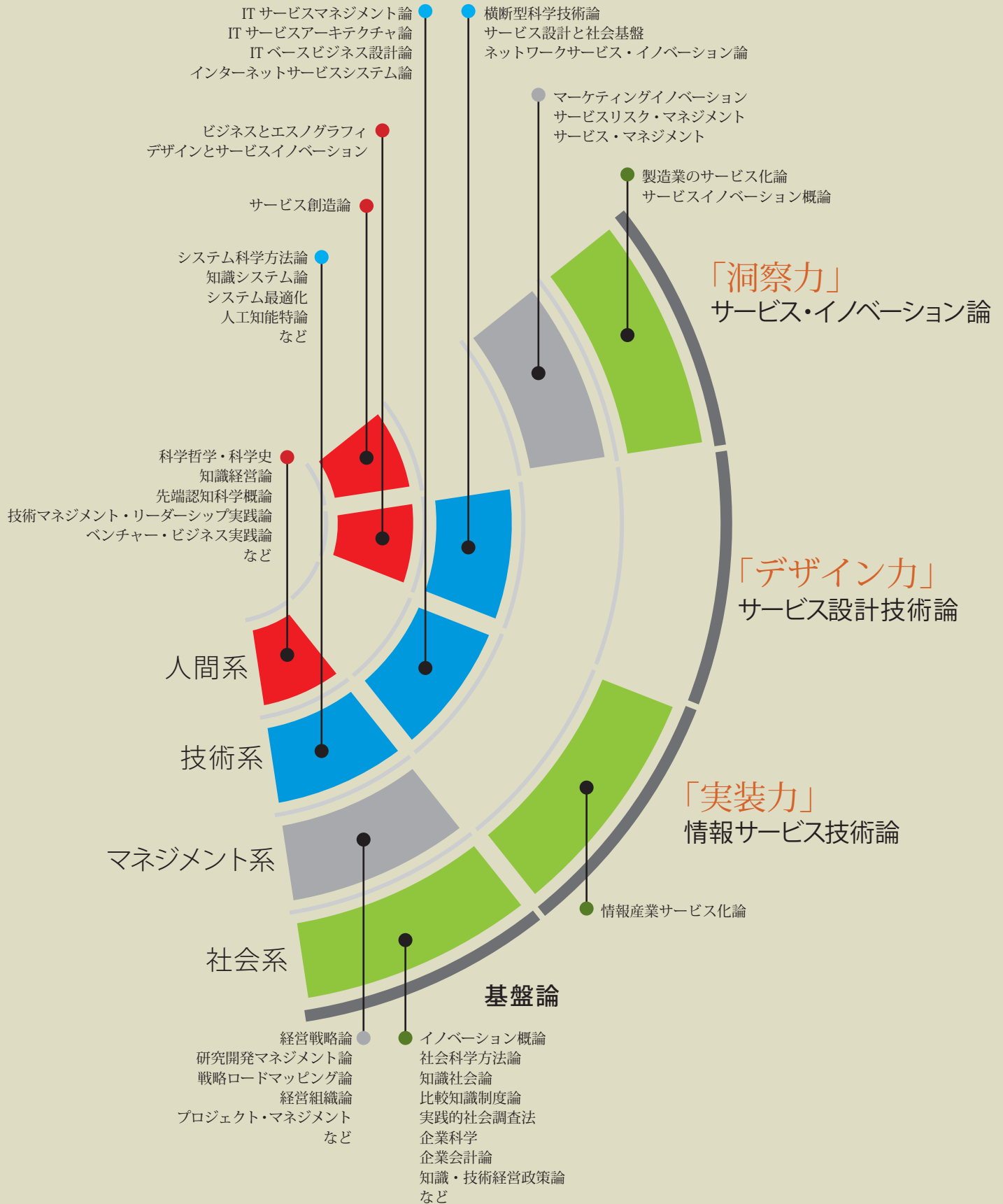
洞察力

デザイン力

実装力



## カリキュラム





# 『洞察力』 サービス・イノベーション論

人間についての広く・深い知見を得るとともに、戦略的な思考を磨くことで、人間としてのポテンシャルを高め、物事を見極める力を身につける。

## サービスイノベーション概論

小坂 満隆 | 日高一義

産業界、教育界でグローバルに進展を続けているサービスイノベーションについてその内容と方向性を理解し、サービスイノベーションを俯瞰できる技術の体系を習得させる。

グローバルなレベルでのサービスイノベーションの実例と方向性、サービス業の分類と特徴、サービスサイエンスと知識科学、情報科学の関連性、サービスモデル、ビジネスモデルなど、サービスに関する一般論の習得と最近の話題に関して学習する。

## サービス創造論

中村 孝太郎

サービスの価値創造は、サービス組織により構想されサービスシステムを通して提案されるサービス価値を、顧客が利用して便益を享受・満足することにより達成される。専門領域横断的な視点により、古今のサービス価値の推移やサービス価値創造の方式を学ぶ。

まず JAIST が取り組んできたサービス・サイエンスの経緯を紹介した上で、サービス価値の可視化と具現化およびサービス価値創造を理解する。

各分野のゲストスピーカーを迎え、もてなしの文化的淵源（歴博研究者等）やホテル・旅館の成功要因（顧客満足研究者）およびネット技術・ロボット技術を用いたビジネス（業界誌編集長）等のサービス事例を紹介し、実習を通して学生みずから独自のモデリング手法にも取り組む。

## マーケティングイノベーション

恩蔵 直人 | 藪谷 隆

この講義では、サービス・ビジネスやサービスの考え方について、マーケティングの視点から議論し、理解してもらうことを目的としている。

まず、マーケティングの発想やサービスの捉え方について理解してもらった後、サービス・ビジネスに関する具体的な事例を取り上げながらメンバーで議論する。また、数名のゲストを呼ぶことで、より臨場感あふれた講義にする予定である。

## サービスリスク・マネジメント

香月 祥太郎 | 生沼 寿彦 | 石田 修一 | 田尾 啓一

サービス企業が有するさまざまなリスクを特性、内容、影響度合いから考察し、個々のサービスリスクに対するマネジメントの重要性を理解すると共に、如何にしてリスクを回避するかの方策を修得することを目的とする。

わが国企業ではサービス化の進展に伴い、高度な情報技術を活用した積極的な事業を推進しているが、そこには潜在的なリスクも多く、その対応が大きな課題である。本講義は、情報・通信や運輸・流通、金融等のサービス企業について、業務上のリスクを研究開発、ヒューマン・リソース、ファイナンス、組織及び知的財産権の管理面から、その要因、構造、特性等について分析し、リスクへの対応策等の実践的アプローチを通してリスク・マネジメントのあり方を修得する。

## サービス・マネジメント

日高一義

サービス科学を学習・研究する上で基礎となる、サービスの経済学的な側面、マネジメント的な側面、および数理的な側面を体系的に教育する。

内容は以下のものを予定している。サービスの経済的・歴史的位置づけ、サービスの本質、サービス戦略、サービス品質、サービス価値の定義と測定、サービス・プロセス、サービスのプロジェクト・マネジメント、サービスの国際化、需要予測や最適化などの関連する数理的技術、等。

## 製造業のサービス化論

角 忠夫

日本の製造業は、20世紀の商品の品質と生産性から、21世紀に入り商品とサービスにより顧客にソリューションを提供することが求められている。本講座は製造業におけるビジネスモデルの変遷と、各モデルにおける代表的なケースを学ぶことを通じそれぞれのビジネスジャンルにおけるサービスビジネスへの展開力を構築することを目指す。

本講座はこのような製造業のビジネスモデルの変遷に注目し、各業種の先行モデル（1）エレベータ、（2）建設機械、（3）計装、（4）IT事業、（5）公共プラントのオペレーション事業などのケーススタディーを通じ、サービスビジネスモデルの概念化と各種産業におけるビジネスモデル構築の処方箋の確立を目指す。さらにサービスビジネスにおけるコスト（Cost）と、構築される付加価値（Value）並びにその対価（Price）の現状を明らかにし、サービスビジネスの無形資産価値評価の確立を目指す。



# サービス設計技術論『デザイン力』

新しいコンセプトを創造する仮説設定力を高め、あなたにしかできない発想を産み出す力を身につける。

## 横断型科学技術論

船橋 誠壽

サービス設計は、工学・人文・社会科学的知識を統合活用して、要求を探索し、これを充足する仕組みを開発するプロセスである。知識の統合活用の方法論として構築が始まっている横断型科学技術論を学び、サービス設計の基盤形成を目指す。

システム思考・工学の発展としての横断型科学技術論の動向、主要骨子（知識統合による問題同定・解析、アーキテクチャ立案、最適化など）とその事例、事業創生を志向した方法論展開の取組み。ゲスト講師によるサービス工学の誕生から今日に至る発展系譜、および、サービス設計のためのCADツールの紹介。課題演習による相互討論。

## サービス設計と社会基盤

橋田 浩一 | 和泉 憲明 | 森 彰 | 池田 満 | 高木 理

多様なステークホルダの間での相互作用のネットワークとしての社会におけるサービスの持続可能性について理論的に把握し、サービス研究の具体的な事例を通じてその理解を深める。

サービスの生産性向上に科学的にアプローチするため、サービスのライフサイクルを仮説-検証サイクルおよび知識創造スパイラルとして捉えるモデルを提示し、サービスが社会に受容され持続的に発展するための基盤要件をそのモデルに基づいて考察する。また、産業技術総合研究所で進められているサービス研究のプロジェクトをこのモデルに当てはめながら紹介し、サービスにおけるイノベーションと持続可能性に関して具体的に論ずる。

## ネットワークサービス・イノベーション論

林 幸雄

広範囲の産業にかかわる情報通信技術の現状を踏まえた上で、サービス科学の基本的概念を理解しつつ、「サービスイノベーション」の実践的知識を習得することを目指す。

さまざまな業種におけるマクロな産業構造の変化を含めて、ネットワーク情報技術を活用した、サービス提供における機会の増大や機能の拡大向上を考えながら、各自の事例に対する考察を深め、サービスイノベーションについて議論する。特に、産業社会論的に見た知識社会への移行や、イノベーション・デザインについて理解を促す。

## デザインとサービスイノベーション

永井由佳里

デザインが創造的なアイデアやイノベーションの創出を誘発すると言われる。新しい意味を探すために有効とされるデザイン思考を体験的に理解し、人間中心デザインの観点から、新しいコミュニケーションやシステムの提案に結びつく構想力を身につける。

デザイン知識を身につけるには、なぜ今デザインが重要かを考えることが最初のステップである。授業では、デザイン研究を踏まえ、デザインに啓発されるサービス・イノベーションを検討し、新しいサービスの意味を探究する。デザイン思考による創造課題を通じ、デザインによる知識創造の基本的なプロセスの構造を理解する。さらに、自己の視点から新しいデザインとサービスの接点を探し、構想した提案を発表し議論を行う。

## ビジネスとエスノグラフィ

伊藤 泰信

この講義では、生活者（消費者）の活動、ひいては人間の活動というものを、トータル（全体論的）に捉える、文化人類学的な視角および調査手法（エスノグラフィ）を、その基礎から学ぶことを目的としている。

今日、生活者（消費者）の価値観や嗜好は多様化・複雑化し、マーケッター・開発者の思いこみだけでサービスや製品を作ることの限界が言われ始めている。合理的な思考を持ち、言葉で自らの経験を説明しようとする人々として生活者（消費者）を捉えてしまってきたこと、また、生活者の心、身体、それを取り巻く環境（社会・文化）は、個々に独立した事象として説明しようと考えられてきたことに、従来の市場調査やマーケティング活動における大きな誤りがあったのだと指摘する経営者もいる。人間の活動というものをトータル（全体論的）に捉える文化人類学の基礎を学ぶことで、消費行動調査や業務改善、ユーザビリティ調査など、（それらへの批判的な議論も含めて）広義のビジネスに有用な視角や可能性について検討する。



# 『実装力』 情報サービス技術論

新たな構想・デザインを実社会に具現化するためには異なる分野のシステムを統合しなければならない。  
具現化するためのシステム統合力と最後までやりぬく実践力を身につける。

## 情報産業サービス化論

山上 俊彦 | 高橋 浩 | 神田 陽治

情報通信ソフトウェア産業の提供企業の、CTO、経営企画、事業企画、新規事業企画などの責任者および担当者を主に想定しつつ、情報通信ソフトウェアの利用企業の関係者にも有益であることに配慮しながら、情報通信ソフトウェア産業のサービス化について論ずる。目的は (a) 情報通信ソフトウェア産業のサービス化の現状と方向の理解 (b) サービス化の背景にある要因の理解 (c) 経営企画やビジネス企画に応用する能力の獲得、の3点である。

最初に、情報通信ソフトウェア産業のサービス化を、サービスの電子化、アンバンドル化、ビジネス顧客のインフラのIT化、などの需要側サービス化要因と、ネットワーク技術、サーバ技術、仮想化技術、クラウド化、運用技術の標準化などの供給側サービス化要因から論ずる。

次に、情報通信ソフトウェア産業のサービス化を進展させる最近の技術的背景について、ネットワーク、サーバ、ウェブなどの観点から論じ、さらに、オフショア開発、フィールドエンジニアリング、オープンソース、ファウンデーションによる共同開発などの最近の事例について、具体的に考察、議論する。

最後に、プラットフォーム理論およびプラットフォーム戦略について具体的な事例について解説する。さらに、最近のサービス化事例をとりあげて、ブレーンストーミングツールを利用してグループワークを行い理解を深める。

## IT サービスアーキテクチャ論

松塚 貴英

現在、企業のITシステムでは、ビジネスの変化に応じた高品質なサービスソリューションの迅速な構築・提供が求められている。そのために、企業システムを構築するためのアーキテクチャの変遷と、現在主流となっているサービス指向のシステム構築についての考え方や基礎知識・最新動向について修得する。

具体的には、企業システムのソフトウェアアーキテクチャ、基盤となるSOA、Webサービスやクラウドコンピューティング、Ajaxなどの技術などについて修得する。また、システム構築におけるソフトウェアプロセスや注意点について解説・議論する。個人実習およびグループワークを通して、実践的な考え方を身につける。

## インターネットサービスシステム論

松尾 豊

インターネットにおけるさまざまなサービスの開発に関わる、基盤技術ならびにビジネスモデルについて学習する。革新的なインターネットサービスを構築できるような知識の習得を目指す。

近年、インターネットでは検索エンジンをはじめ、SNSやソーシャルブックマークなど、Web2.0といわれるさまざまなサービスが発展している。ネット広告の市場規模は国内で数千億円であり、eコマースの市場も着実に成長している。本科目では、検索エンジンやSNS、広告配信、レコメンデーションなど、実際のサービスを踏まえながら、インターネットサービスの中心となる技術とそのビジネスモデルについて学ぶ。

## IT ベースビジネス設計論

湯浦 克彦 | 碓井 誠

サービスシステム構築の背景となる、企業組織の経営戦略およびIT計画の策定プロセスを担当するための知識体系の理解と専門職としての基礎スキルや応用力の育成を図る。

流通業などのサービス企業のサービスを、ITを用いたシステムとして実現し運用していくためには、企業組織全体にわたって、経営方針に合致したシステム構築の方針（企業アーキテクチャ）を確立する必要がある。本講義では、経営や業務への貢献目標を含めたIT投資計画の策定、業務・システムの連携強化に関する戦略計画などの理論的な側面と、流通業におけるサービスシステム成功事例を通じた実務的な側面からITベースのビジネス設計論を展開する。

## IT サービスマネジメント論

赤津 雅晴 | 西岡 由紀子 | 辻 洋

適切なコストで高い品質のITサービスを提供し続けるために、情報技術に加えて、人やプロセスも考慮した総合的なマネジメント手法を修得するとともに、ITサービスにイノベーションを起こすためのマインドの習得を目指す。

ITサービスマネジメントの基本的な考え方やCMMI、ITILといった標準スキームについて理解を深めた上で、ITサービスの計画、開発、提供、維持といった各フェーズにおいて、ITサービスの利害関係者間の合意形成のアプローチや、ITサービスの評価・改善手法を解説する。また、オフショア開発や戦略的アウトソーシングといった具体的なITサービスにおけるマネジメント事例についても言及する。



技術経営 (MOT) 中核講義			
科目	教員	所属	専門分野
イノベーション概論	井川 康夫 (教授)		次世代技術経営、研究開発マネジメント
企業科学 (Enterprise Science)	井川 康夫 (教授)		次世代技術経営、研究開発マネジメント
	Hugo Tschirky	スイス連邦工科大学 名誉教授	技術革新マネジメント、戦略マネジメント
研究開発マネジメント論	小坂 満隆 (教授)		研究開発マネジメント、企業情報システム
戦略ロードマッピング論	井川 康夫 (教授)		次世代技術経営、研究開発マネジメント
	Robert Phaal	英国ケンブリッジ大学 シニアリサーチアソシエイト	戦略的技術マネジメント
戦略的技術マネジメント論	原 陽一郎	長岡大学学長	イノベーション、研究開発マネジメント
経営戦略論	遠山 亮子 (客員教授) 中央大学大学院教授		知識経営、経営戦略、イノベーションマネジメント
次世代技術経営特論	井川 康夫 (教授)		次世代技術経営、研究開発マネジメント
	佐久田 昌治	株式会社日本総合研究所 研究顧問	民間企業の技術戦略、新規事業戦略
MOT改革実践論	近藤 修司 (客員教授) 株式会社四面思考研究所代表取締役		経営コンサルティング、新産業創出論
システム思考論	吉田 武稔 (教授)		システム科学を基盤としたナレッジマネジメント
技術マネジメント・リーダーシップ 実践論	角 忠夫 (客員教授) 松蔭大学大学院教授		技術管理、技術経営論 (MOT)、企業経営論
	赤坂 洋一	株式会社マグナデザインネット 社外取締役	半導体工学、半導体製造および製造装置、 企業経営
ベンチャー・ビジネス実践論 I	和田 知久	琉球大学教授	OFDM 通信システム設計、SOC 設計
	赤羽 雄二	ブレイクスルーパートナーズ株式会社	ベンチャービジネス
技術標準化論	仲林 清	千葉工業大学教授	教育工学、eラーニング
知的財産マネジメント論	則近 憲佑	大阪工業大学教授	知的財産法およびその周辺法
JAIST-MOTオープンセミナー	井川 康夫 (教授)		次世代技術経営、研究開発マネジメント
新概念創生論	田浦 俊春	神戸大学教授	設計工学、デザイン学
プロジェクト・マネジメント (中級)	渡辺 貢成	特定非営利活動法人日本プロジェクト マネジメント協会理事	プロジェクトマネジメント、応用化学
プロジェクト・マネジメント (上級)	大迫 正弘	有限会社ソフカ代表取締役	プロジェクトマネジメント、参加型事業管理
	小坂 満隆 (教授)		研究開発マネジメント、企業情報システム

知識科学中核講義			
科目	教員	所属	専門分野
社会科学方法論	梅本 勝博 (教授)		ナレッジマネジメント、地域政策論
システム科学方法論	中森 義輝 (教授)		システム方法論、 複雑系モデリングとシミュレーション
	野中 郁次郎	一橋大学名誉教授	知識創造論、組織論
知識経営論	遠山 亮子 (客員教授) 中央大学大学院教授		知識経営、経営戦略、 イノベーションマネジメント
	近藤 修司 (客員教授) 株式会社四面思考研究所代表取締役		経営コンサルティング、新産業創出論
知識社会論	永田 晃也 (客員教授) 九州大学大学院准教授		科学技術政策、技術経済論
比較知識制度論	國藤 進 (教授)		創造性支援システム、グループウェア
	三村 修	三村創造技法研究所所長	創造性支援システム
	有馬 淳 (客員准教授) 株式会社富士通総研		変革管理、 ナレッジマネジメントシステム
知識システム論	安藤 剛寿 (客員准教授) 株式会社富士通研究所		サービス技術、Web データ活用技術
	桑原 輝隆	文部科学省科学技術政策研究所 総務研究官	技術予測、科学技術政策研究、 科学計量学
科学計量学	伊神 正貫	文部科学省科学技術政策研究所 主任研究官	科学技術政策研究、計量書誌学
	阪 彩香	文部科学省科学技術政策研究所 研究員	科学計量学、科学技術政策、 分子生物学
	林 隆之	大学評価・学位授与機構評価研究部 准教授	大学評価、研究評価、科学技術政策
知識・技術経営政策論	平澤 洽	東京大学名誉教授	科学技術政策研究、技術経営論、 システム論
先端認知科学概論	藤波 努 (准教授)		身体性認知科学、自然言語意味論
経営組織論	犬塚 篤	岡山大学大学院 准教授	知識経営論、経営組織論、組織心理学

## — JAIST の教育資源の集成

技術経営中核講義、知識科学中核講義、情報科学専門講義、一般講義  
サービス・イノベーションを学ぶ・究めるための基盤

情報科学専門講義			
科目	教員	所属	専門分野
数理論理学	石原 哉	(教授)	構成的論理学、構成的数学
情報解析学特論	吉高 淳夫	(准教授)	動画検索、感性情報処理
離散信号処理特論	鶴木 祐史	(准教授)	音声信号処理、デジタル信号処理、聴覚情報処理
システム最適化	金子 峰雄	(教授)	集積回路設計、回路システム理論
	平石 邦彦	(教授)	システム科学、形式的モデル化の理論
人工知能特論	東条 敏	(教授)	自然言語の形式的意味論、論理プログラミング
	飯田 弘之	(教授)	ゲーム情報学、コンピュータ将棋
	鶴岡 慶雅	(准教授)	人工知能、自然言語処理、ゲーム情報学
計算量の理論と離散数学	池田 心	(准教授)	進化計算、エージェントシミュレーション、ゲーム
	宮地 充子	(教授)	情報セキュリティ、群論アルゴリズム
計算機アーキテクチャ特論	上原 隆平	(准教授)	計算量の理論、グラフアルゴリズム
	日比野 靖	(教授)	計算機アーキテクチャ、マルチメディア通信
自然言語処理論Ⅰ	白井 清昭	(准教授)	自然言語処理、知識獲得、機械学習
統計的信号処理特論	徳田 功	(准教授)	非線形力学、時系列解析、複雑系
コンピュータネットワーク特論	篠田 陽一	(教授)	情報環境、ネットワーク分散システム
	丹 康雄	(教授)	計算機ネットワーク、ユビキタスコンピューティング
情報理論	松本 正	(教授)	情報理論、ワイヤレス通信、ターポアルゴリズム
オペレーティングシステム特論	田中 清史	(准教授)	プロセッサアーキテクチャ、並列分散システム、組込みシステム
ソフトウェア環境構成論	鈴木 正人	(准教授)	高信頼ソフトウェア、ソフトウェアアーキテクチャ
	敷田 幹文	(准教授)	グループウェア、高信頼大規模サーバ
認識処理工学特論	小谷 一孔	(准教授)	画像情報工学、色彩工学、ヒューマンインタフェース
並列処理	井口 寧	(准教授)	並列処理、ハードウェアアルゴリズム
自然言語処理論Ⅱ	白井 清昭	(准教授)	自然言語処理、知識獲得、機械学習
知的エージェント技術	島津 明	(教授)	自然言語処理、言語理解、機械翻訳
分散システム論	デファゴクサビエ	(准教授)	分散システム、分散アルゴリズム、耐故障性
データベース特論	小川 瑞史	(教授)	自動推論、形式証明、プログラム解析・検証

一般講義			
科目	教員	所属	専門分野
実践的社会調査法	杉原 太郎	(助教)	感性情報処理、ユーザ行動分析、MOT 教育
マーケティング論	鈴木 剛一郎	株式会社イノベーションマネジメント コンサルティング代表	経営戦略、経営者人材育成、新製品新事業開発
企業会計論	山口 裕康	公認会計士	財務会計、管理会計、企業財務
科学哲学・科学史	吉田 夏彦	東京工業大学名誉教授	科学哲学
科学技術者の倫理	札野 順	金沢工業大学教授	科学者・技術者倫理
	大来 雄二	金沢工業大学客員教授	電気工学、技術者教育、技術倫理
プロジェクト・マネジメント(初級)	梶原 定	梶原定コンサルティング・オフィス代表	プロジェクトマネジメント、ビジネス法務

※ここに掲載した基盤論の科目は一部です。 ※教員の所属の欄で、(職名) という表記は、北陸先端科学技術大学院大学における職名です。

# JAIST MOSでの学び方

JAIST MOSでは、あなたが所属する研究科や学びの目的によって、あなたにとって最適な履修計画を作ることができます。



JAIST MOSへの入学時期は、仕事と調整しやすいように、年に2回（4月・10月）あります。入学後の学習・研究のスケジュールは下図のとおりです。

また、長期履修学生制度を利用すると、学費を所定の年限分（2年分）のままにして、最長4年まで年限を延長することができます。

1年目				2年目			
入学後 <b>3</b> ヵ月	入学後 <b>7</b> ヵ月	入学後 <b>9</b> ヵ月	入学後 <b>10</b> ヵ月	入学後 <b>12</b> ヵ月	入学後 <b>17</b> ヵ月	入学後 <b>22</b> ヵ月	入学後 <b>23</b> ヵ月
研究室配属	副テーマ研究	副テーマ研究	副テーマ研究	主テーマ研究	修士論文中間審査	修士論文提出	修士号授与
	知識科学重点MOS	情報科学重点MOS					

あなたの「サービス・イノベーション」へ続く道筋を見出す  
あなたの「学び」をかたちづくる



## 赤津 雅晴



株式会社日立製作所  
システム開発研究所  
企画室室長

専門 企業情報システム、サービス・イノベーション論

学位 博士(工学) 大阪大学

職歴 株式会社日立製作所 システム開発研究所部長  
スタンフォード大学 Engineering Economic  
Systems 学科客員研究員

主な活動・著書・論文など

・電気学会電子・情報・システム部門役員  
・藤田憲久、赤津雅晴、水野浩孝(2005)「ビジネス情報システム」コロナ社

## 和泉 憲明



独立行政法人  
産業技術総合研究所  
社会知能技術研究ラボ  
主任研究員

専門 人工知能、知識工学、サービスシステム開発

学位 博士(工学) 慶應義塾大学

職歴 独立行政法人産業技術総合研究所 サービス工学研  
究センター研究チーム長、大阪府立大学 文書解析・  
知識科学研究所 研究員(2008~)

主な活動・著書・論文など

・和泉憲明、吉岡 健、山口高平(2004)「ビジネス指向の  
サービス関連オントロジー」人工知能学会誌、第19巻、2  
号、pp.151-158.  
・N.Kamimaeda, N.Izumi, K.Hasida(2007) "Evaluation of  
participants' contributions in knowledge creation based  
on semantic Authoring", The Learning Organization,  
Vol.14-3, pp.263-280. (2008.8 Highly Commended  
Award)

## 伊藤 泰信



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
社会知識領域)  
准教授

専門 文化人類学、知識社会学

学位 博士(比較社会文化) 九州大学

職歴 日本学術振興会 特別研究員  
大分県立芸術文化短期大学 専任講師  
国立民族学博物館 共同研究員

主な活動・著書・論文など

・伊藤泰信(2007)「先住民の知人類学：ニュージーラ  
ンド=マオリの知と社会に関するエスノグラフィ」世界思想社  
・ITO, Yasunobu, (2004) "On Maori Studies as a  
discipline and its differentiation: from the viewpoint  
of social systems theory", The Journal of New Zealand  
Studies (NZSSJ), Volume 11, pp.11-24.

## 生沼 寿彦



北浜法律事務所  
外国法共同事業パートナー  
弁護士

専門 知的財産法、国際知的財産、M&A、ガバナンス

学位 LLM (Master of Laws) (米国ノースウエスタン大  
学ロースクール)

法学士(大阪市立大学)

職歴 北浜法律事務所  
レイサム・アンド・ワトキンス(NYオフィス)

主な活動・著書・論文など

・生沼(共著)(2006)「サーベンス・オクスレー法概説」  
商事法務  
・生沼(2004)「ゲノムネットワーク研究と知的財産権」  
PNE 増刊ゲノムネットワーク Vol.49、3001頁、2004年  
12月  
・生沼(2004)「新仲裁法のもとで執行決定を取得した事例」  
JCA ジャーナル、2004年12月号、2頁

## 神田 陽治



知識科学研究科  
客員教授  
富士通株式会社  
フィールド・イノベーション  
本部

専門 インターネットサービス

学位 工学博士(東京大学)

職歴 株式会社富士通研究所サービスプラットフォーム研究セ  
ンターサービスミドルウェア研究部長  
株式会社富士通総研フィールド・イノベーション推進本  
部

主な活動・著書・論文など

・日本バーチャルリアリティ学会仮想都市研究委員会委員  
・神田陽治(2002)「わかる!インスタントメッセージング」  
オーム社  
・田中二郎、神田陽治(編著)(1995)「インタフェース大  
作戦—グループウェアとビジュアルインタフェース」共立出版

## 池田 満



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
知識メディア領域)  
教授

専門 知識工学、医療サービスサイエンス

学位 工学博士(大阪大学)

職歴 大阪大学助教授

主な活動・著書・論文など

・人工知能学会理事、教育工学会理事、教育システム学会理事  
・Wenhuan Lu and Mitsuru Ikeda (2008) "A Uniform  
Conceptual Model for Knowledge Management of  
International Copyright Law", Journal of Information  
Science, 34, 1, pp.93-109.  
・Kazuhisa Seta and Mitsuru Ikeda (2008)  
"Conceptualizations for Designing a Learning System  
to Facilitate Meta-Cognitive Learning", Proc. of World  
Conference on Educational Multimedia, Hypermedia &  
Telecommunications, pp.2134-2143.

## 石田 修一



立命館大学大学院  
テクノロジー・マネジメント  
研究科 教授

専門 技術経営、社会システム工学

学位 博士(経営学) 北海道大学  
博士(工学) 京都大学

職歴 ソニー株式会社

日本学術振興会 特別研究員  
北海学園大学 助教授  
立命館大学 経営学部 助教授

主な活動・著書・論文など

・玄場公規、石田修一(2008)「大阪・八尾発 50年後も  
輝く中小企業：事例に学ぶ事業継続力」日刊工業新聞社  
・寺本義也(編)、石田修一(共著)(2001)「知の神秘と  
科学(知識文化論1)」新評論

## 碓井 誠



フューチャーアーキテクト  
株式会社  
取締役副社長

専門 サプライチェーンマネジメント、情報システム学

学位 同志社大学工学部機械工学科卒業

職歴 株式会社セブン・イレブン・ジャパン 常務取締役情報  
システム部長

主な活動・著書・論文など

・芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科 教授  
・京都大学経営管理大学院 特別教授  
・多摩大学大学院経営情報学研究所 客員教授  
・碓井誠(2009)「セブン・イレブン流サービス・イノベ  
ーションの条件」日経BP社  
・木村達也(編著)、碓井誠他(共著)(2009)「実践 CRM」(第  
6章)、生産性出版

## 恩蔵 直人



早稲田大学  
商学学術院 教授  
商学学術院長 兼 商学部長

専門 マーケティング

学位 博士(商学) 早稲田大学

職歴 早稲田大学 専任講師、助教授

主な活動・著書・論文など

・恩蔵直人(2007)「コモディティ化市場のマーケティング論理」  
有斐閣  
・恩蔵直人(1995)「競争優位のブランド戦略—多次元化  
する成長力の源泉」日本経済新聞社

## 香月 祥太郎



立命館大学大学院  
テクノロジー・マネジメント  
研究科 教授

専門 技術戦略、技術マーケティング、戦略ロードマップ、  
ライフサイエンス

学位 工学博士(大阪大学)

職歴 三井情報開発株式会社総合研究所長、取締役  
NTT ソフトウェア株式会社技術開発部  
マルチメディア処理技術センター担当部長  
鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授兼  
副研究科長  
立命館大学情報理工学部生命情報学科教授

主な活動・著書・論文など

・文部科学省科学技術政策研究所 客員研究員  
・香月祥太郎(監修)(2008)「技術ロードマップの設計・導  
入・実施と研究開発戦略への活用」技術情報協会  
・岡崎康司、坊豊秀雅(監訳)、香月祥太郎(共訳)(2005)  
「バイオインフォマティクス」メディカル・サイエンス・インター  
ナショナル

## 小坂 満隆



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
社会知識領域)  
教授

専門 研究開発マネジメント、サービス・イノベーション、  
システム工学と知識科学の融合、企業情報システム、  
システム制御 (推定理論)

学位 工学博士 (京都大学)

職歴 株式会社日立製作所 システム開発研究所所長  
株式会社日立製作所 情報通信グループ  
IDソリューション事業部長

主な活動・著書・論文など

・小坂満隆 (2008) 「新事業創生におけるシステム工学と  
ナレッジマネジメントの融合」『システム制御情報学会誌』  
52、6、pp.221-227、システム制御情報学会  
・栗栖宏充、小坂満隆 (2008) 「サービスエンジニアリング  
へのシステム工学とナレッジマネジメントの融合」『電気学会  
論文誌電子情報システム部門誌』128、4、pp.532-539、  
電気学会

## 角 忠夫



知識科学研究科  
客員教授 (MOT担当)

専門 技術管理、技術経営論 (MOT)、企業経営論

学歴 京都大学 工学部電気工学科卒業

職歴 株式会社東芝取締役 電機事業本部長  
株式会社芝浦製作所 代表取締役社長  
芝浦メカトロニクス株式会社 代表取締役社長

主な活動・著書・論文など

・松蔭大学大学院経営管理研究科 教授  
・芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科 客員教授  
・株式会社むさし野経営塾 代表取締役塾長  
・日本開発工学会 副会長、理事  
・日本 MOT 学会企画委員会 副委員長、論文委員  
・戦略経営協会 理事  
・一般社団法人日本 MOT 振興協会 諮問委員  
・M.K. バダウィ (著)、角忠夫 (訳) (2004) 「改訂エン  
지니어リングマネジャー: 強き技術系管理者への道」日科技連  
出版社

## 田尾 啓一



立命館大学大学院  
テクノロジー・マネジメント  
研究科 教授

専門 リスクマネジメント、金融工学を活用した経営管理、  
ビジネスプロセスイノベーション

学歴 京都大学 理学部数学科卒業

職歴 三井情報開発株式会社  
等松・青木監査法人 (現 監査法人トーマツ)  
(公認会計士登録、同社パートナー、シニアパートナー)  
デロイトトーマツコンサルティング株式会社 常務取締役

主な活動・著書・論文など

・アビームコンサルティング株式会社執行役員  
・田尾啓一 (1996) 「リテールバンクの未来像」『地銀協  
月報 1996/3』社団法人全国地方銀行協会  
・田尾啓一 (1990) 「経営分析の効用と課題」『年報経営  
分析研究』第 6 号、日本経営分析学会

## 高木 理



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
知識メディア領域)  
助教

専門 知識モデル、知識創造フレームワーク

学位 博士 (数学) 京都産業大学

職歴 日本学術振興会 特別研究員  
京都大学 非常勤講師  
独立行政法人産業技術総合研究所 特別研究員  
京都産業大学 特約講師  
独立行政法人産業技術総合研究所 招聘研究員

主な活動・著書・論文など

・International Journal On Advances in Software: Editorial  
Board Member  
・Osamu Takaki, Izumi Takeuti, Takahiro Seino, Noriaki  
Izumi, Koichi Takahashi (2009) "Incremental verification  
of consistency properties of large-scale workflows from  
the perspectives of control flow and evidence life cycles",  
International Journal On Advances in Software, Vol.2,  
No.1, pp.147-161.

## 高橋 浩



宮城大学 食産業学部  
教授

専門 情報システム学、経営工学

学位 博士 (学術) 東京工業大学

職歴 富士通株式会社 主席部長

主な活動・著書・論文など

・高橋浩 (2005) 「企業間連携形態に基づく電子タグ利用  
サービスの分析: マスカスタマイゼーションの視点から」『経  
営情報学会誌』14 巻 1 号、経営情報学会  
・高橋浩 (2000) 「デジタル融合市場—IT 革命による市場  
統合のダイナミズム」ダイヤモンド社

## 辻 洋



大阪府立大学 大学院  
工学研究科  
教授

専門 経営情報システム

学位 博士 (工学) 京都大学

職歴 株式会社日立製作所  
米国カーネギーメロン大学 客員研究員  
米国スタンフォード日本センター 客員研究員

主な活動・著書・論文など

・産学戦略的研究フォーラム、オフショア・ソフトウェア・ア  
ウトソーシング調査研究主査 (2005・2006・2008 年)  
・H. Tsuji, et al. (2008) "Myths and Paradoxes in  
Japanese IT Outsourcing", CACM, 51-1.  
・辻洋他 (2008) 「オフショア・ソフトウェア開発の進化と  
技術者の経験知」『情報処理』49-5.

## 永井 由佳里



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
知識メディア領域)  
准教授

専門 デザイン論、デザイン知識

学位 博士 (学術) 千葉大学  
Ph. D. (University of Technology, Sydney)

職歴 筑波技術短期大学 デザイン学科講師、同助教授

主な著書・論文・活動など

・Nagai Y., Taura T., Mukai F. (2009) "Concept blending  
and dissimilarity: Factors for creative concept generation  
process", Design Studies, 30 (6), pp.648-675, 2009/11  
・周豊、永井由佳里 (2010) 「連想概念ネットワークに基  
づくデザイン印象分析の方法: 季節感ユニフォームがもた  
らす印象の事例研究」日本デザイン学会デザイン学研究、  
57 (3)、2010/9 (in press)

## 中村 孝太郎



知識科学研究科  
客員教授  
株式会社イー・クラフト  
代表取締役

専門 人工知能、システム科学、ナレッジマネジメント、  
技術経営、サービス科学

学位 工学博士 (東京工業大学)  
博士 (知識科学) 北陸先端科学技術大学院大学

職歴 日本たばこ産業株式会社 主席研究員  
JT エンジニアリング株式会社 取締役 (SI 事業統括)

主な活動・著書・論文など

・日本開発工学会サービス・イノベーション研究会 副主査  
・高齢者介護総合情報サイト「ケアコミュニティ」運営  
・野中郁次郎 (監修)、黒瀬邦夫 (編)、(14 名の共著) (2005)  
「富士通の知的『現場』改革」(『2.3 ナレッジ型サービス  
創造の考え方』ダイヤモンド社  
・亀岡秋男 (監修)、(12 名の共著) (2007) 「サービスサイ  
エンス—新時代を開くイノベーション経営を目指して」  
NTS 出版  
・中村孝太郎、SRI 研究会 (2008) 「サービス・サイエンスから  
みるロボットビジネスへのアプローチ」日刊工業新聞社「ロボ  
ナブル web サイト」(2008-09)

## 西岡 由紀子



株式会社アクト・コン  
サルティング執行役員  
システムエンジニアリング  
部長

専門 業務分析・設計、IT 化要求開発、モデリング手法

学位 工学修士 (京都大学)

職歴 松下電器産業株式会社 (現 パナソニック株式会社)  
デジタルコンピュータ株式会社 (現株式会社ワイ  
イー・ディー・シー)  
トレンドマイクロ株式会社を経て現職  
大阪大学非常勤講師

主な活動・著書・論文など

・西岡 (2009) 「目的価値の実現に向けた IT 化サービスの  
勘どころ—MUSE とアジャイル型開発の融合—」『第 3  
回横幹連合コンファレンス』  
・西岡 (2008) 「IT 化構想時における知識創出—顧客の目  
的価値を見出す方法論—」『システム/制御/情報』Vol.  
52、No. 6.

## 橋田 浩一



独立行政法人  
産業技術総合研究所  
社会知能技術研究ラボ長

専門 知識工学、認知科学、自然言語処理

学位 理学博士 (東京大学)

職歴 電子技術総合研究所 知能情報部長  
産業技術総合研究所 サイバーアシスト研究センター長  
情報技術研究部門長 等を経て現職

主な活動・著書・論文など

・橋田浩一 (1994) 「知のエンジニアリング: 複雑性の地平」  
ジャストシステム  
・橋田浩一他 (編著) 「認知科学 (岩波講座)」岩波書店、  
1994-1995 年  
・橋田浩一他 (編著) 「言語の科学 (岩波講座)」岩波書店、  
1997-1999 年  
・言語処理学会 副会長  
・日本認知科学学会 会長



## 林 幸雄



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
システム知識領域)  
准教授

専門 複雑ネットワーク科学  
学位 博士(工学) 京都大学  
職歴 富士ゼロックス株式会社システム技術研究所  
株式会社 ATR 視覚機構研究所  
株式会社 ATR 人間情報通信研究所研究員(出向)  
富士ゼロックス株式会社システムコミュニケーション研  
究所  
文部科学省研究振興局 学術調査官併任

主な活動・著書・論文など  
・科学技術振興財団、さきがけ「知の創生と情報社会」領  
域アドバイザー  
・林幸雄(編著)(2007)「ネットワーク科学の道具箱」近代  
科学社  
・林幸雄(2007)「噂の拡がり方: ネットワーク科学で世界  
を読み解く」化学同人

## 日高一義



知識科学研究科  
(知識科学専攻・  
社会知識領域)  
教授

専門 サービス・サイエンス、最適化技術  
学位 博士(理学) 早稲田大学  
職歴 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所  
IBM Research ワトソン研究所 戦略部門  
文部科学省科学技術動向研究所 客員研究員

主な活動・著書・論文など  
・Stuart I Feldman, Krishna S Nathan, Thomas Li,  
Kazuyoshi Hidaka, and Corinna Schulze, (2006) "The  
Clarion Call for Modern Services: China, Japan, Europe,  
and the US", Communications of the ACM, Vol.49, No.7.  
・Kazuyoshi Hidaka, (2006) "Trends in Services Sciences  
in Japan and Abroad", Science & Technology Trends  
Quarterly Review No.19, National Institute of Science and  
Technology Policy, Ministry of Education, April.

## 船橋 誠壽



株式会社日立製作所  
システム開発研究所  
技術顧問

専門 システム制御  
学位 工学博士(京都大学)  
職歴 株式会社日立製作所(中央研究所,システム開発研究所)  
京都大学大学院 情報学研究科 客員教授  
独立行政法人国立環境研究所 監事

主な活動・著書・論文など  
・計測自動制御学会フェロー  
・電気学会上級会員  
・船橋、本間、小坂(2003)「企業における横断型科学技  
術の重要性」『計測と制御』42、3、pp.215-221.  
・M. Funabashi, K. Kawano, S. Sameshima, and H. Kato  
(2008) "Evolution of Autonomous Decentralized Systems  
for Information and Control", SICE Journal of Control,  
Measurement, and System Integration, Vol.1, No.3,  
pp.184-191.

## 松尾 豊



東京大学大学院  
工学系研究科  
准教授

専門 人工知能、ウェブ  
学位 博士(工学) 東京大学  
職歴 産業技術総合研究所 研究員

主な活動・著書・論文など  
・Yutaka Matsuo, Junichiro Mori, Masahiro Hamasaki,  
Keisuke Ishida, Takuichi Nishimura, Hideaki Takeda, Koiti  
Hasida, and Mitsuru Ishizuka (2007) "POLYPHONET: An  
Advanced Social Network Extraction System", Journal of  
Web Semantics, Vol.5, No.4.  
・松尾豊、安田雪(2007)「SNS における関係形成原理:  
mixi のデータ分析」『人工知能学会論文誌』Vol.22、No.5、  
人工知能学会

## 松塚 貴英



Fujitsu Laboratories of  
Europe Limited (英国)  
Principal Researcher

専門 分散企業システム、Web アプリケーション開発・  
実行環境、ソフトウェアアーキテクチャ  
学位 修士(工学) 東京工業大学  
職歴 富士通株式会社  
米国 Carnegie Mellon University 客員研究員

主な活動・著書・論文など  
・松塚貴英(2008)「Ajax の基本と実践 システム開発に  
役立つ知識とテクニック」日経 BP 社  
・吉田裕之、松塚貴英(2005)「よくわかる JavaServer  
Faces のしくみ」ソフトリサーチセンター

## 森 彰



独立行政法人  
産業技術総合研究所  
社会知能技術研究ラボ  
主任研究員

専門 ソフトウェア工学基礎、ネットワークセキュリティ、  
ユビキタスコンピューティング、サービス工学  
学位 博士(工学) 京都大学  
職歴 英国オックスフォード大学訪問研究員、米国カリ  
フォルニア大学サンディエゴ校ポスドクフェロー、  
北陸先端科学技術大学院大学助手、産業技術総合  
研究所、現在に至る

主な活動・著書・論文など  
・Mori (2010) "A Method for Analyzing Code Homology in  
Genealogy of Evolving Software", Masatomo Hashimoto and  
Akira Mori, Proc. of the Fundamental Approaches to Software  
Engineering (FASE 2010)  
・Mori (2009) "A Goal-Directed Human Activity Computing  
Model", Jianwen Xiang and Akira Mori, Proc. of the 10th  
International Symposium on Pervasive Systems, Algorithms and  
Networks (ISPAN 2009)

## 藪谷 隆



トモソウ・ジャパン  
株式会社  
代表取締役

専門 省エネ環境、サービス事業モデル開発と展開  
学歴 北海道大学 経済学部 経済学卒業  
職歴 株式会社日立製作所  
株式会社日立総合計画研究所 主任研究員

主な活動・著書・論文など  
・小坂満隆、藪谷隆(2009)「インバータを利用した省エネ  
ルギーCO2 排出量削減に対するサービスビジネスモデルに関  
する一考察」『電気学会論文誌 C』電気学会  
・藪谷隆(2006)「事業リスクと事業成果のシェアリングに  
係わるビジネスモデル: 生産装備サービス事業の展開」、日  
本リアルオプション学会『リアルオプションと経営戦略』(第  
9 章)、シグマベイスキャピタル

## 山上 俊彦



株式会社 ACCESS  
CTO Office  
シニアスペシャリスト

専門 通信プロトコル国際標準化、モバイルインターネット  
学位 博士(工学) 香川大学  
職歴 電電公社 横須賀電気通信研究所  
AT&T ベル研究所 客員研究員  
NTT マルチメディアビジネス開発部  
東京農工大学大学院 客員教授  
筑波大学大学院 非常勤講師

主な活動・著書・論文など  
・情報処理学会グループウェア研究会幹事 1992-1996 年  
・ISO IEC/SC18 WG4 国内委員会(以後 SC6 Messaging-SWG)  
主査 1991 年-2002 年  
・W3C XHTML Basic 1.0 Co-Editor 2000.  
・OMA WML 2.0 Editor 2001.  
・OMA Browser Technology WG Interim Vice-Chair 2007-2008.  
・電子情報通信学会英文誌 (D) Knowledge, Information  
and Creativity Support System 特集号幹事(2007・2008 年)

## 湯浦 克彦



静岡大学 情報学部  
教授

専門 情報アーキテクチャ、企業間ビジネスプロセス、システ  
ムマネジメント  
学位 博士(工学) 大阪大学  
職歴 株式会社日立製作所(中央研究所,ビジネスソリュー  
ション事業部)  
株式会社日立コンサルティング

主な活動・著書・論文など  
・湯浦克彦(2006)「IT ガバナンスの構造—SOX 法と CSR  
が変える企業システム」エスアイビーアクセス  
・湯浦克彦(2005)「実践!! エンタープライズ・アーキテクチャ  
—ビジネスシステムの頂点を目指せ」ソフトリサーチセンター

# 社会人学生が「働く」「学ぶ・究める」ための最適なサポート体制 JAIST MOSの教育システム

JAIST MOSは、社会人学生を対象とした教育プログラムです。

仕事と学業を両立させなければならない社会人学生を全面的にサポートするため、JAIST MOSでは学生のみなさんが学びやすい「最適な教育システム」を用意しています。

最適な教育システムのコンセプトは、仕事と学びを両立させる「職学近接」です。「職（仕事場・仕事時間）」と「学（大学院・開講時間）」が近接することで、社会人学生が学びやすい環境を実現します。職学近接は「コンビニエンス」と「リアリティ」から成り立ちます。

社会人学生にとって「学びやすい」便利な環境、それは「スピード感ある学習」「長期履修学生制度」「複数教員指導制度」「夜間・土曜集中開講」「駅前で開講」です。（情報科学専門講義は金・土・日に実施します。）

また、社会人学生が学習意欲を継続・向上できるような、「リアリティある」、実践的・具体的な教育内容をめざしています。「自らが抱えるリアルな課題を主テーマ・副テーマにする」「多様なカリキュラム」「社会人同士だからこそできるネットワークづくり」で社会人学生が興味を持てる環境を創り出しています。

特に、JAIST MOSは知識科学研究科と情報科学研究科の2つの研究科から成り立つため、知識科学研究科が提供するカリキュラムと情報科学研究科が提供するカリキュラムから成り立ちます。様々な専門性や職歴を持つ社会人学生のみなさんのニーズに対応できます。

## JAIST MOS

知識科学重点  
JAIST MOS

情報科学重点  
JAIST MOS

MOT(技術経営)  
コース専門講義科目

知識科学研究科

情報科学  
専門講義科目

情報科学研究科

# 「職学近接」で進む。

問題意識を持っているからこそ、学ぶ意味がある。  
職種・業種を超え、同じ「学びのモチベーション」を持つ社会人学生が集まるからこそ、  
新しいネットワークを広げることができる。

## コンビニエンス

### スピード感ある学習

JAIST MOSは、1科目が1週間で完結する「短期集中授業」を行っています。学生がスピード感を持って知識を吸収し、ステップアップを実感できるようになっています。

### 長期履修学生制度

社会人学生のみなさんが仕事と学びを両立するため、標準修了年限を超えて課程を修了するように履修計画をカスタマイズすることができます。この長期履修学生制度を利用すると、標準修業年限の学費で年限を超えた履修が可能となります。

### 複数教員指導制度

JAIST MOSでは、各学生に「主指導教員」「副指導教員」「副テーマ指導教員」という3人の教員がつき、研究・学習のサポートをします。各専門分野の教員から、きめ細かい指導を受けることができます。

### 夜間・土曜集中開講

JAIST MOSは社会人学生対象のコースであることから、授業を夜間と週末に集中して開講しています。社会人学生のみなさんが仕事と学びを両立させるための、最適なシステムを用意しています。(情報科学専門講義は金・土・日に実施します)

### 駅前が開講

JAIST MOSは、JR山手線・京浜東北線内の駅前にある、東京サテライトキャンパスで開講します。社会人学生が仕事帰りに通学するには最適のロケーションです。

## リアリティ

### 多様なカリキュラム

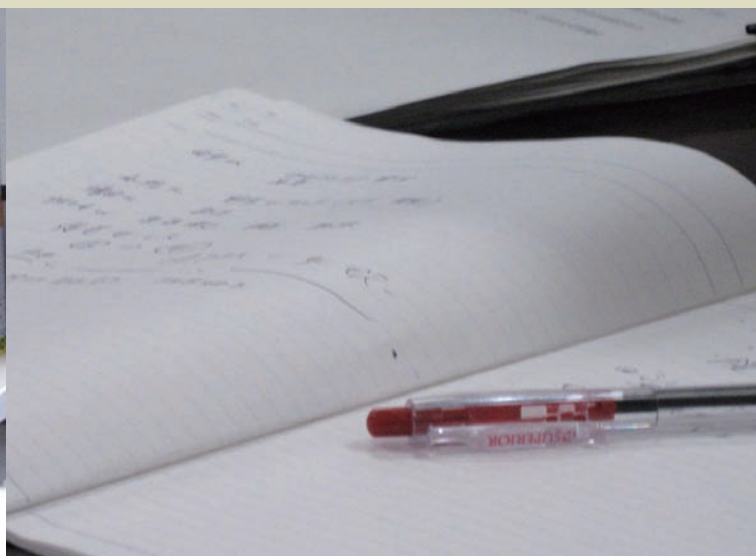
JAIST MOSは、知識科学研究科が提供する教育資源と情報科学研究科が提供する教育資源から成り立ち、カリキュラムは幅広い分野をカバーしています。目的意識、専門分野、職種など、様々なバックグラウンドを持つ社会人学生のみなさんのニーズに応えることができる教育機会を提供しています。

### 自らが抱えるリアルな課題を 主テーマ・副テーマにする

JAIST MOSでは、1つの専門分野のみではなく、複眼的な視野を得るため、「主テーマ(修士論文)」と「副テーマ」の2段階の研究課題を設定することになっています。複数の研究テーマを持ち、問題解決まで努力することで、問題発見能力や問題解決能力を習得できます。社会人のみなさんが現場で抱えている問題や気づきを主テーマ・副テーマ研究で取り上げ、解決へと結び付けてください。

### 社会人学生同士だからこそできる ネットワークづくり

JAIST MOSには、ビジネスの第一線で活躍する社会人が集っています。東京サテライトキャンパスでは、社会人学生がそれぞれの現場で抱えている課題を持ち寄り、活発な知の交流が生まれています。教室やラウンジでは、教員から学生へという一方的な知識の伝授のみでは体験できない、「知の循環と創造」が日々行われています。JAISTの特徴である「知を創造する、刺激的な場たれ」というスピリットが継承されています。また、教員やOB・OGからなる、豊富な人的ネットワークにより、産学連携や実践プロジェクトも数多く行われています。JAIST MOSは、ビジネスのプロフェッショナルのための能力開発に最適な、理論と実践の両輪を備えた場を提供します。



# mOS

JAIST  
Management Of Service  
Master's Program

社会人だからこそ学べる JAIST MOS  
アドミッション・ポリシー

あなたのスタートラインになる。  
サービス・イノベーターである、  
JAIST MOSは、

JAIST MOS（サービス経営コース）は北陸先端科学技術大学院大学の東京サテライトキャンパスで開講される、博士前期課程（修士）です。

JAIST MOS は「知識科学研究科に所属する学生」「情報科学研究科に所属する学生」をそれぞれ 10 名募集します。

「知識科学研究科に所属する学生」「情報科学研究科に所属する学生」はともに、MOS コースの専門講義科目を受講しますが、修了するための履修科目の構成要件が異なります。また、所属する研究科によって、授与される学位（修士）も異なります。

出願時には、目的意識、履修要件、授与学位等を考慮して、最適な研究科を選択してください。



## 募集対象者

JAIST MOS の出願要件は以下の要件をすべて満たす方です。

- ・大学卒業者およびそれと同等以上の方
- ・社会人として3年以上の社会経験のある方（専門分野、職種、年齢は問いません）

## 募集人員

知識科学研究科（博士前期課程）MOS コース	10名
情報科学研究科（博士前期課程）MOS コース	10名

## 授与学位

所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた論文を提出し、その審査に合格した場合、所属する研究科の学位（下表）を授与します。

それとともに「サービス経営（MOS）コース」の修了証を授与します。

知識科学研究科（博士前期課程）MOS コース	修士（知識科学）
情報科学研究科（博士前期課程）MOS コース	修士（情報科学）

## 修了年限

博士前期課程2年（長期履修可）

## 修了要件

本コースの修了には、主テーマ研究（8単位、修士論文にかかわる研究活動）、副テーマ研究（2単位）の他、各研究科で定められた科目履修指針にしたがい、10科目（20単位）を修得します。

### 【知識科学研究科の科目修得指針】

「MOSコース専門講義科目」から6科目（12単位）以上、MOTコースの「技術経営中核講義」「知識科学中核講義」から2科目（4単位）以上を含む、10科目（20単位）以上を修得します。

### 【情報科学研究科の科目修得指針】

情報科学研究科の「共通科目」「導入科目」「基幹科目」「専門科目」「MOSコース専門講義科目」「先端講義科目」から、以下の4つの点にしたがい、修得します。

- (1) 共通、導入、基幹、専門、MOSコース専門講義、先端講義科目から10科目（20単位）以上
- (2) 基幹、専門、MOSコース専門講義、先端講義科目から、4領域5科目（10単位）以上
- (3) 導入、基幹、専門、MOSコース専門講義、先端講義科目から8科目（16単位）以上  
※導入科目は3科目まで
- (4) MOSコース専門講義科目から6科目（12単位）以上

## 学費等

JAIST MOS に入学される方は下記の入学料および授業料の納入が必要となります。

入学料	282,000 円
授業料	267,900 円（半期分）

※在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。平成23年4月に入学される方の入学料および授業料の納入額については、変更することがあります。

JAIST MOSの入学者選抜は下記の要領で行います。詳細については、博士前期課程学生募集要項をご覧ください。

## 選抜方法

面接の結果と提出された学業成績証明書等の総合的判定により合格者を決定します。面接時間は30分です。

面接内容は出願時に提出された小論文の口頭発表をしていただき、その内容について試験官が試問します。また、口頭発表に関する口述試問の他、以下のような口述試問を行います。

- ・志願者が関心を有する事項等のキーワードを基にした口述試問
- ・基礎的な英語の口述試問
- ・出身専攻分野を考慮した基礎的専門知識についての口述試問
- ・情報科学に関する口述試問（情報科学研究科志願者のみ）

口頭発表の際には、実物投影機能付きプロジェクター（普通紙、OHPシート対応）およびホワイトボードが利用できますので、説明に利用する場合は資料等を事前に作成し、お持ちください。PC等を利用した発表はできません。

## 検定料

30,000円

## 試験会場

東京

## 試験日程

### 2010（平成22）年10月入学者選抜試験実施日程

資格審査提出締切 ※注	2010（平成22）年5月18日（火） [当日消印有効]
出願締切	2010（平成22）年6月15日（火） [当日消印有効]
選抜期日	2010（平成22）年7月10日（土）／11日（日）
合格者発表	2010（平成22）年7月21日（水）
入学手続期間	2010（平成22）年9月21日（火）

### 2011（平成23）年4月入学者選抜試験実施日程

資格審査提出締切 ※注	2010（平成22）年11月16日（火） [当日消印有効]
出願締切	2010（平成22）年12月14日（火） [当日消印有効]
選抜期日	2011（平成23）年1月15日（土）／16日（日）
合格者発表	2011（平成23）年1月26日（水）
入学手続期間	2011（平成23）年3月1日（火）から2日（水）

※注 入学資格審査について  
大学を卒業していないなどにより、博士前期課程（修士課程）の入学資格を満たしていない入学希望者について、その資格の審査を行います。詳細については、学生課入試係（nyushi@jaist.ac.jp）までお問合せください。



## 科学技術のフロンティアを拓く

JAIST (Japan Advanced Institute of Science and Technology、北陸先端科学技術大学院大学) は、我が国の科学技術の世界的先導に貢献しています。

JAIST は科学技術分野で世界的に競争力のある、先端的な研究を活発に行っています。「教員 1 人あたりの論文数」は国立大学中で 6 位（内閣府総合科学技術会議資料、平成 19 年 11 月現在）、「教員 1 人当たりの共同・受託研究費」は国立大学中 1 位（内閣府総合科学技術会議資料、平成 19 年 11 月）、「文部科学省科学研究費補助金の採択率」は国立大学中 5 位（平成 20 年）など、活発な研究活動は多くのアウトプット・アウトカムを実現しています。

高い水準にある研究能力・資源を基にして、JAIST は国際的に通用する研究者・技術者の育成をめざす体系的な教育を行っています。科学技術人材育成の教育拠点として、新たな試みを続け、常に進化しています。

世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援する、文部科学省「21世紀 COE プログラム」に JAIST は「検証進化可能電子社会—情報科学による安心な電子社会の実現—」「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」で採択されています。JAIST は今、さらなる科学技術の研究・教育拠点としての基盤を強化しています。

また、JAIST は社会の発展に貢献する努力を続けています。共同研究・受託研究、客員講座や寄附講座・連携講座の活用など、産業界や地域社会との連携も積極的に行い、社会的な存在としての大学院の役割を果たしています。

[お問合せ先]



国立大学法人  
北陸先端科学技術大学院大学  
東京サテライトキャンパス

2010年10月にキャンパスを品川へ移転する予定です。  
詳しくはウェブサイトをご覧ください。

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6  
キャンパス・イノベーションセンター3F・4F

☎ 03-5440-9033

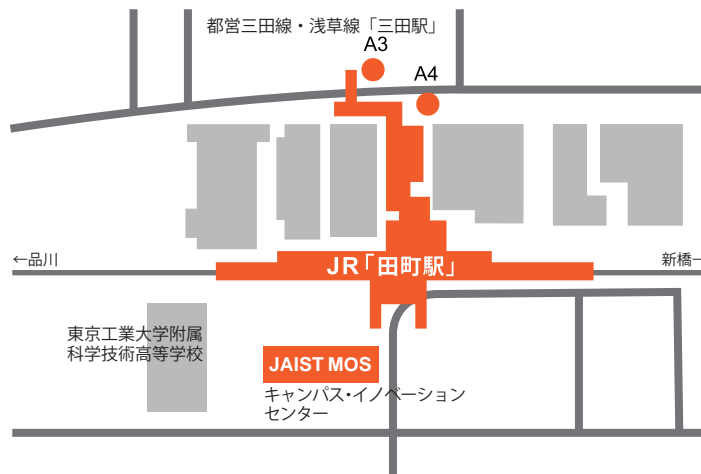
☎ 03-5440-9119

✉ sate@jaist.ac.jp

<http://www.jaist.ac.jp/mos/>

🚶 JR山手線・京浜東北線  
「田町駅」芝浦口（東口）徒歩1分

🚶 都営三田線・浅草線  
「三田駅」徒歩5分



## 2010（平成22）年度 JAIST MOSコース入学説明会について

サービス経営、サービス・イノベーションに興味のある方、学びたい方は、JAIST MOSの入学説明会にご参加ください。説明会開催の詳細は、ウェブサイトまたは、下記までお問合せください。

[入学案内]

☎ 0761-51-1966

✉ nyugaku@jaist.ac.jp

